



4 ぼくは、きゅうしよくへいびん

せんせいが いました。

「あしたから きゅうしよくが はじまります。」

「やったあ。」

みんな おおよろこびです。

「じゅんびは ぜんぶ、じぶんたちで しますよ。」

せんせいは、おかずの よそいかたと

おぼんのもちかたを

おしえてくれました。

ゆきおは、きゆうに しんぱいに

なりました。

きょうのばんごはんは、

しちゆう
シチューです。

ゆきおは、おかあさんのかおを



のぞいて いました。

「ぼくが シチユー^{しちゆう}ー よそって いいかな。」

「えっ、きゆうに どう したの。」

おかあさんは、びっくりした かおで ききました。

「あのね、ぼく、きゆうしよくとうばんに なったんだ。」

いよいよ きゆうしよくの じかんです。ゆきおは スープ^{すうぷ}の かかりです。おぼんに スープ^{すうぷ}を おく てが ちよつと ふるえました。

20-3

21-1

「おしごと、じょうずにできたね。」

くばりおわったとき、せんせいがやさしい

こえでいいました。

「おしごとかあ。」

ゆきおはむねを はりました。



(文ぶん

編集委員会 / 絵え

オームラトモコ)



2

幸せをいのって織るじゅうたん



12-1

とうきょう

東京の小さなじゅうたん屋さんで「ギャツベ」と呼ばれるじゅ

うたんを見たとき、わたし私は初めて出会ったのに、なぜかとてもなつ

かしく感じ、温かい気持ちになりました。手織りの「ギャツベ」に

は、動物の模様もようや花や木の模様もようが織りこまれています。そうした

模様もようをどんな人たちが、どんなふうふうに織っているのだろうか、わたし私

の頭の中は、遠い国で「ギャツベ」を織る人たちのことではいっ

になりました。

「ギャツベ」は羊の毛を使って織るじゅうたん。
仲間のにおいがするのかわ、子羊が寄ってきた。



ある年の春、^{わたし}私は^{*1}イラン南西部のザグロス山地を^{おとず}訪れ、
車で四時間も五時間も山の道を上っていった草原で、昔ながら
のテントで生活する^{*2}カシュガイ族の人たちに会うことができま
した。

12-3

13-1

*1イラン

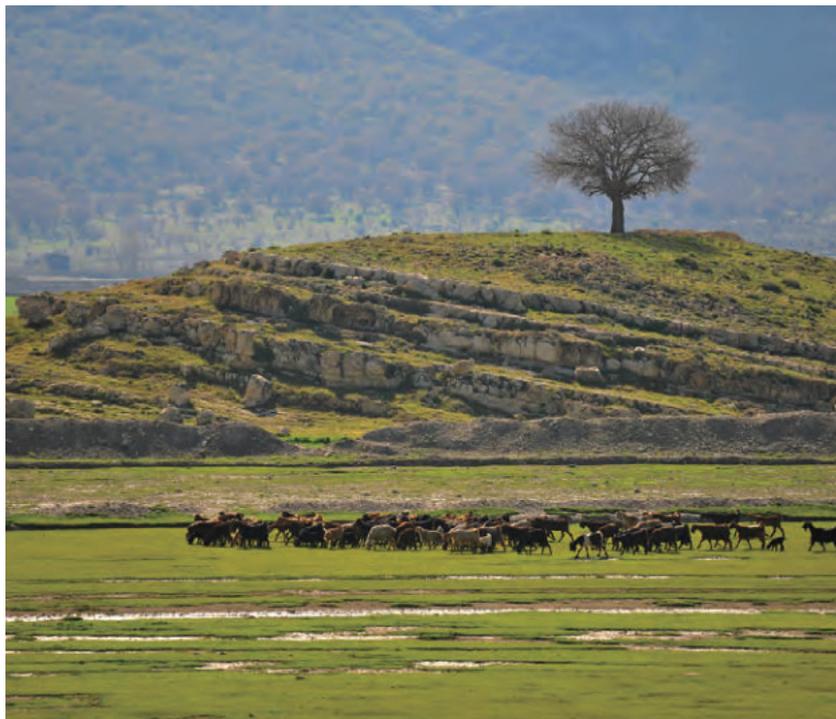
ペルシャ湾^{わん}に面するイラン・イスラム共和国。

*2カシュガイ族

イラン南西部のファールス州で羊とともに生活し、
牧草を求めて移り住む遊牧民。

カシュガイ族の人たちは、町から遠くはなれた草原で、家族全員が
力を合わせて働かなければ、生きていくことができませぬ。子供^{こども}た

草原が広がるイラン南西部のザグロス山脈のふもと。



ちも、午前中は移動教室で勉強し、午後は羊の世話をしたり、水くみの仕事を^{てっだ}手伝ったりしていました。

その遊牧生活で使うのが、「ギヤツベ」です。厚みがあるので、冬は地面からの寒さを、夏は地面からの暑さを防ぐことができるので

す。
女性たちは以前、自分たちが使う日用品として「ギヤツベ」を織りました。けれども今は、ヨーロッパやアメリカ、そして、日本にも「ギヤツベ」のファンがいて、「ギヤツベ」を織って売ることは、

12-4

13-2